

コラム2 歌舞伎町に人を呼び込むための街づくりの工夫って何？

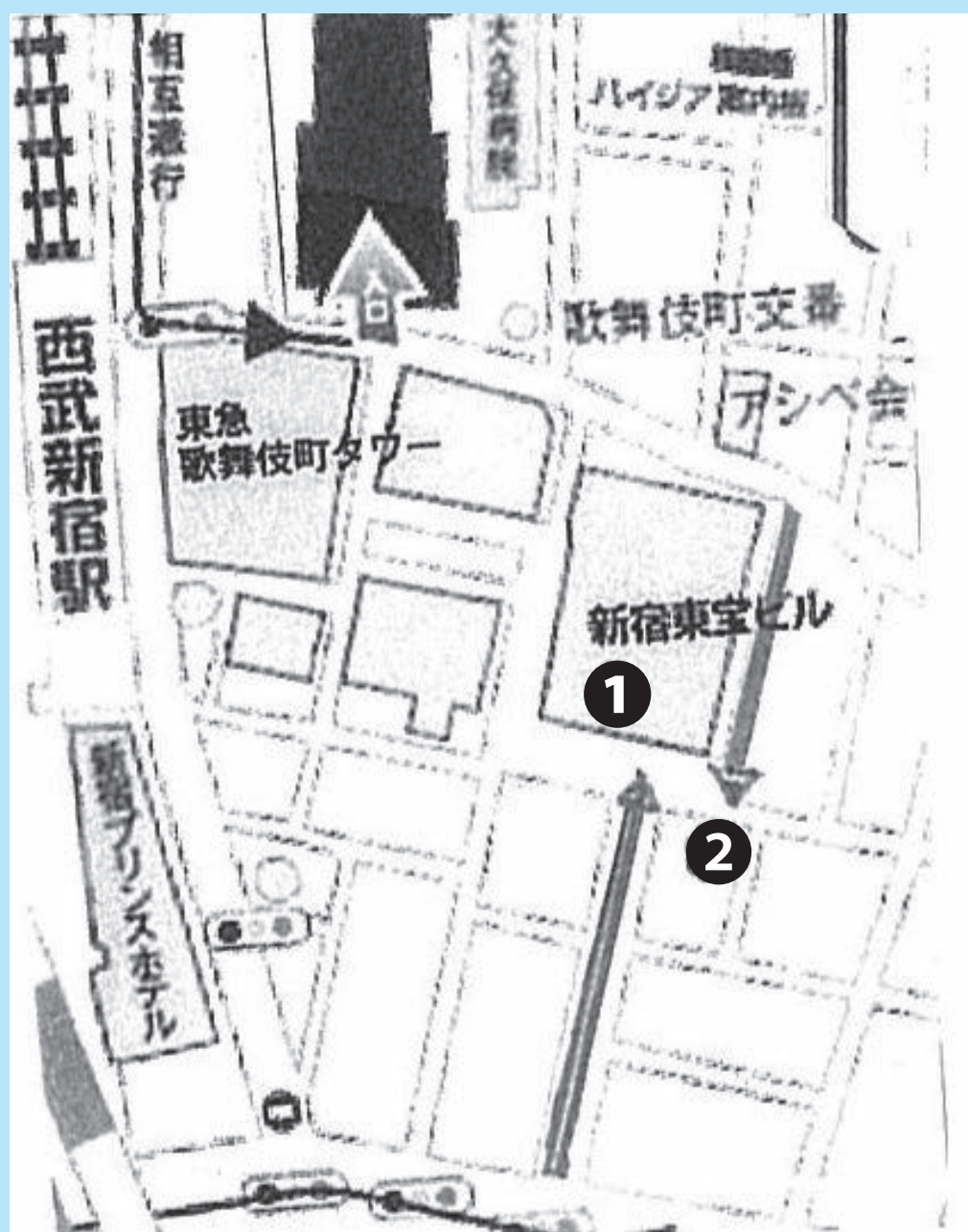
- 歌舞伎町には人を呼び込むために、街づくりの面でいくつかの工夫が凝らされています。
- 一つは、多くの街路を「T字路」にすることです。あえて道路の先の視界を遮ることで、迷路のような空間を生み出しています。例えば、ゴジラロードはゴジラヘッドの先に何があるんだろうと、人の興味を引き付け、奥へ奥へと進みたくなるような人間心理を活用した道路割になっています。



①「ゴジラヘッド」が見えるT字路（令和6年）



②「I♥歌舞伎町」が見えるT字路（令和6年）



T字路の付属地図

- 二つは、中心部に「広場」を作ることです。この広場もその時々で変化しました。最初は「レインボーガーデン」で、中央の噴水には7色のスポットライトが当たり、4種類の巨大なプランターが設置されました。次は「ヤングスポット」で、中央の池が大きくなりましたが、朝まで大騒ぎした学生が池に飛び込んだりしたこともあったようです。そして現在は、「シネシティ広場」で、池はなくなり、完全なフラットな広場となり、様々なイベントが行われています。



シネシティ広場にある歌舞伎町建設記念碑（令和6年）

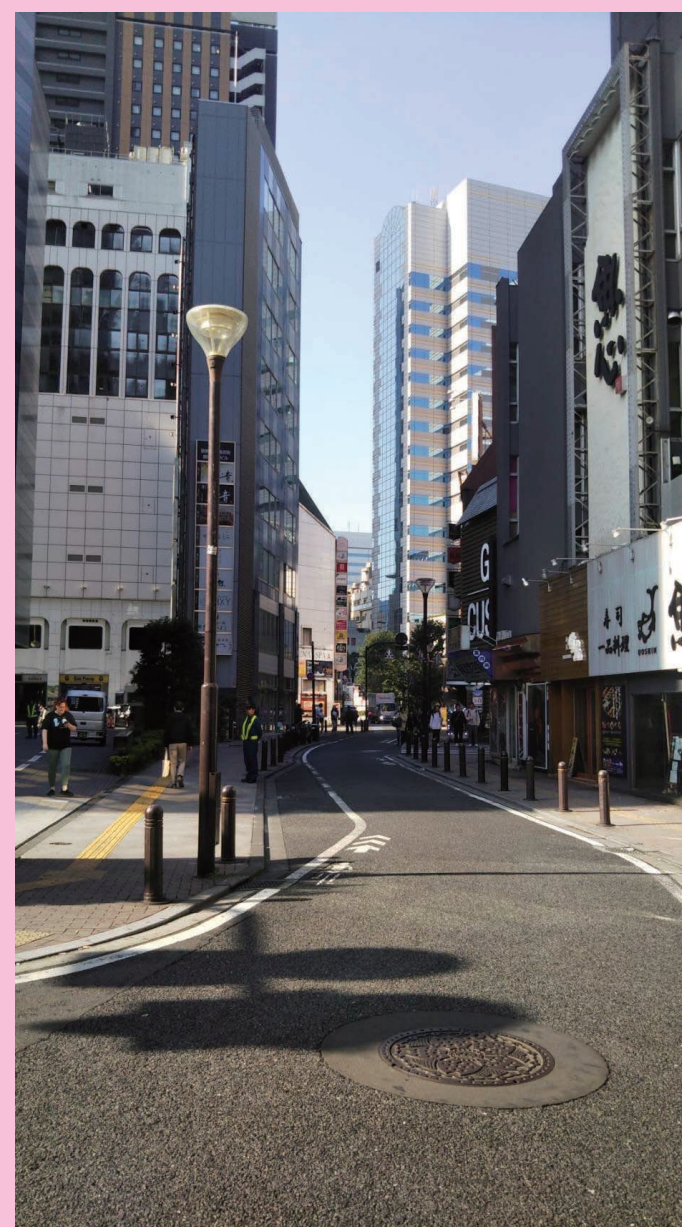
【当時の新聞記事の紹介】

歌舞伎町の街づくりは、地元住民主導で行われた稀有なもので、新聞記事も概ね評価的です。

- 「地主も進んで協力 古巣に築く理想郷（中略）音頭取りは町会長」や「信頼される旧町会長を中心に、戦災都民の自発的な盛り上がる復興の熱意」（昭和20年10月27日。朝日新聞）
- 復興計画が地元復興協力会の手で決定されたことを受け、「タキシードを着こんだおすまし屋の街「銀座」、浴衣で胡坐を組んだ街「浅草」の東京の大盛り場と並んで、狭い歩道、ゴミゴミした横町の中に却って「東京らしい盛場」の魅力を誇っていた戦前の所謂「ジューク」の良さを生かした昔懐かしい食堂横丁も焦土に再建するというこの復興計画（後略）」（昭和21年1月20日。日本産業経済新聞。後の日本経済新聞）（鈴木喜兵衛「歌舞伎町」に収録）

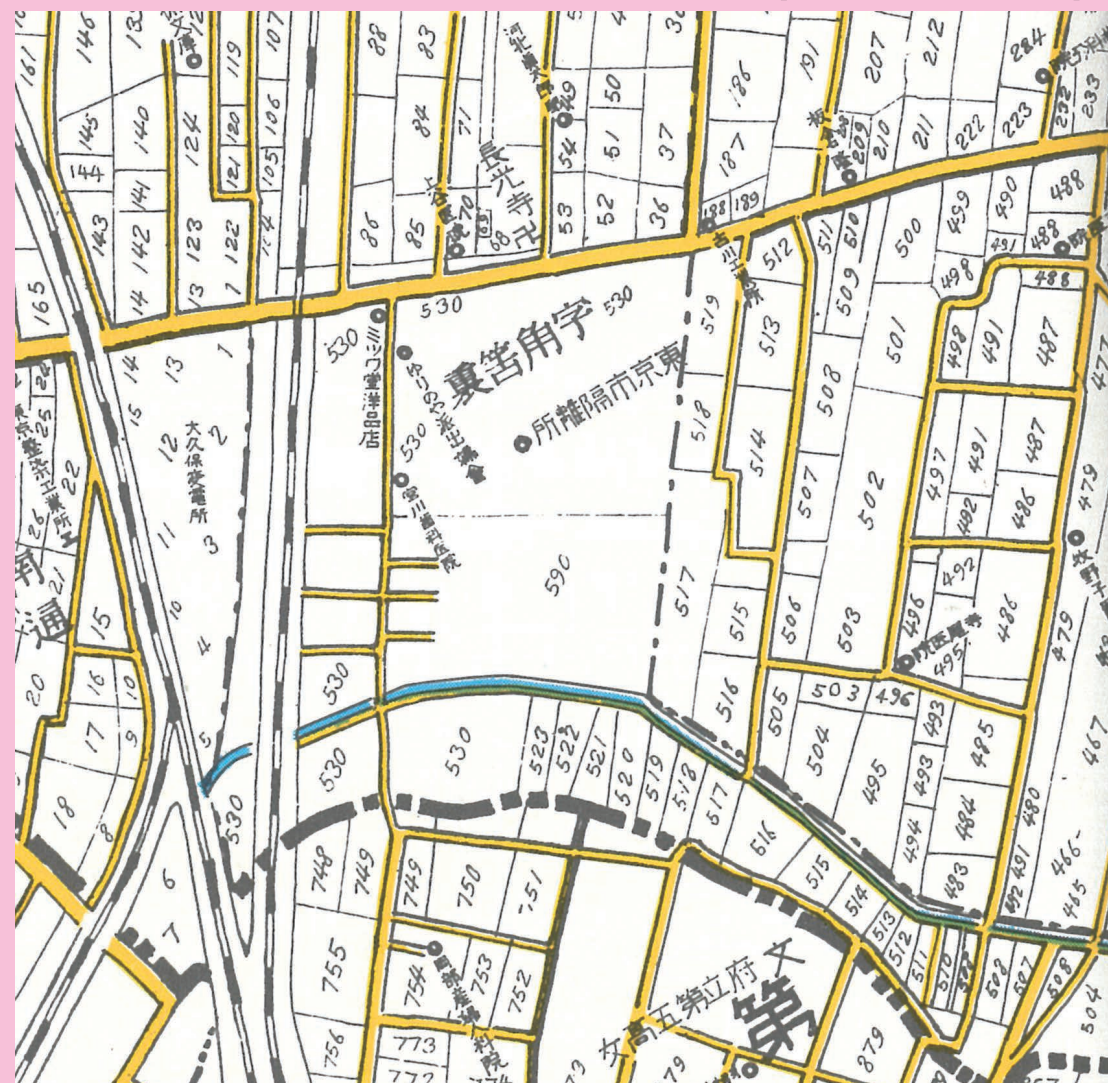
コラム3 昔、歌舞伎町に川が流れていたって本当？

- 現在の東急歌舞伎町タワーと大久保病院の間の「花道通り」には、昭和の始め頃まで、「蟹川」という川が流れていました。
- 花道通りの南北の地形は緩やかな傾斜になっていて、ちょうど通りのところが「谷底」になっています。道路は蛇行が続いていますが、これはかつて谷底に沿って川が流れていた名残です。
- この川は、大久保病院の少し先の地域を水源とし、ゴールデン街の裏側（現在の「四季の道」）を通りながら、太宗寺境内からの流れと合流し、戸山公園を経て早稲田大学の敷地を流れ、神田川に合流していました。概ね4km程度の長さだったといえます。かつての流域周辺には水田があり、今でも「新田裏」（「日清食品前」バス停当たり）や「早稲田」などの地名にその名残をとどめています。
- 昭和初期に暗渠化されましたが、痕跡をたどりながら水源から神田川の合流地点まで、かつての川の流れを想像しながら歩いてみるのはいかがでしょうか。



蛇行した花道通り（令和6年）

暗渠化される直前の蟹川の地図（大正15年）



（出典）「淀橋・大久保の地形図」「地図で見る新宿区の移り変わり 淀橋・大久保編」（新宿区）

大久保地域センターのパフレット



（出典）「大久保地区・地域だより102号」（新宿区大久保地域センター）